

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報活用の基礎知識			11313	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2				

授業の到達目標

情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらう。
さらに、本講義は、自らを律して積極的に授業を受講することにより、情報活用の基礎知識をより深く理解することにより、「KAISEI パーソナリティ」のI（知性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

授業の概要

パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがそろったからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これらから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

授業計画

- 1 情報活用に必要な数学1～N進法
- 2 情報活用に必要な数学2～割合
- 3 情報活用に必要な数学3～統計
- 4 表計算のしくみ1～計算式
- 5 表計算のしくみ2～論理式
- 6 表計算のしくみ3～相対参照と絶対参照
- 7 情報検索の基礎1～ITに関する基礎知識
- 8 情報検索の基礎2～一次情報と二次情報
- 9 情報検索の基礎3～情報管理の方法
- 10 情報検索の基礎4～基礎知識のまとめ
- 11 ビジネスとコンピュータ1～会計
- 12 ビジネスとコンピュータ2～会計
- 13 有価証券報告書の読み方1
- 14 有価証券報告書の読み方2
- 15 有価証券報告書の読み方3

授業の方法

講義と授業内容の理解を深めるための発表を取り入れる。

準備学修

初回の授業が始まる前までに、配布するプリントを簡単に眺めておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

テキスト

プリントを配布する。

留意事項

本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学概論			11317	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心理学とは何を学ぶ学問であるか、また、どのように研究され、現在の形になったのか、心理学の成り立ち、実験心理学から社会的行動、臨床的問題に至る歴史について概観し人の心の基本的な仕組み及び働きについて基礎的な理解を深める。このクラスでは、KAISEI パーソナリティのI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

ヴントを祖とする科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような研究が課題であったか、それは同様に学習認知の研究においてはどのような展開を見せてきたのか、思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉えるうえで、そのような知見は十分であったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすとはどのようなことであるのか、また現在の心理学が抱える課題について、具体的な資料を挙げながら概観する。

授業計画

- 1 オリエンテーション 心理学が誕生するまで
- 2 行動主義と学習理論1
- 3 行動主義と学習理論2
- 4 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学)1
- 5 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学)2
- 6 発達心理学1
- 7 発達心理学2
- 8 認知心理学1
- 9 動機づけ・情動
- 10 社会的行動理論
- 11 人格の形成
- 12 人格の評価
- 13 臨床心理学1
- 14 臨床心理学2
- 15 総括・期末テスト

授業の方法

講義と単元内容（実験・行動・学習・ゲシュタルト・発達・認知・社会的行動理論・人格・臨床）に相応した課題に毎時間回答しながら学習を進める。

ら学習を進める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30点、定期試験70%

欠席について

欠席は1回で3点、遅刻は2点の減点とする。欠席5回を超えた場合は不合格とする。

テキスト

『心理学の最先端』あいり出版 2013

参考図書

授業中に適宜紹介する。

留意事項

毎回小テストを実施するので、予習復習を徹底すること。小テスト結果は平常点に加算する。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

乳幼児教育に関する様々な理論の学習や教育実習他の経験を活かし、自分が興味関心をもったことについて、新たな知識と確かな情報を得る。適切な先行文献を選定することを通して、要約し考察する力と、記録する力、伝える力などの表現力を高める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

課題文献・資料を講読し、発表する。ディスカッションを経て新たな課題を見出す。考察力や伝える力、記録する力を高める。この方法として、栽培活動や教材制作を行い、ドキュメンテーションを作成し、学習成果を検証する。そして、自分の研究したい内容や方向性に見直しをもつようとする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 自然体験に関する課題文献・資料の講読
- 3 文化体験に関する課題文献・資料の講読
- 4 ドキュメンテーションとポートフォリオ、ラーニング・ストーリーについて
- 5 特別支援教育に関する課題文献・資料の講読
- 6 防災教育に関する課題文献・資料の講読
- 7 認定こども園、小規模保育所に関する課題文献・資料の講読
- 8 食育に関する課題文献・資料の講読
- 9 乳幼児教育におけるESDとSDGs
- 10 課題の調査と発表①
- 11 課題の調査と発表②
- 12 課題の調査と発表③
- 13 課題の調査と発表④
- 14 文献検索の方法と実際について
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。学生が作成した資料にもとづく発表、ディスカッションを通して、多面的な理解や気づき、新たな課題を得られるようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題レポートやリフレクションシート他の提出を毎回求め、授業内にフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

自ら進んで課題研究に取り組み、提出物の期限を守ること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、問題意識を持って具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

様々な心理臨床領域における心理学論文の研究論文を文献講読する。学生が各自、関連する文献を収集・要約・発表し、その研究方法や課題について話し合う中で、各自の卒業研究のテーマを見出す機会を設ける。要約文は各自毎回提出とする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 全員で共通の文献講読 1
- 3 全員で共通の文献講読 2
- 4 全員で共通の文献講読 3
- 5 共同研究のためのリサーチの準備
- 6 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 7 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 8 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 9 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 10 リサーチ・結果の処理・データ入力
- 11 リサーチ・結果をまとめて各自で発表原稿を作成
- 12 共同研究の発表の準備
- 13 共同研究の発表の準備
- 14 共同研究の発表の準備
- 15 全体の振り返りと、個人のテーマの評価

授業の方法

教材とする研究論文を熟読することで、研究論文のスタイルについて学ぶ。また、自分の関心のあるテーマや研究法を探しながら、要約文を作成し、発表することで、論文作成に必要な姿勢を身に付ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

共同研究への取り組みと課題の提出状況を評価する。

欠席について

回の欠席につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題は毎回の授業で提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、 スクールカウンセラ（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 共同研究発表の準備
- 3 共同研究発表の準備
- 4 共同研究発表の準備・反省会
- 5 各自の研究発表1
- 6 各自の研究発表2
- 7 各自の研究発表3
- 8 研究法・手続きについての話し合い1
- 9 研究法・手続きについての話し合い2
- 10 各自の研究発表4
- 11 各自の研究発表5
- 12 各自の研究計画の立案と発表4
- 13 各自の研究計画の立案と発表5
- 14 卒業研究発表・質疑応答の練習
- 15 まとめ

授業の方法

共同研究の発表後、各自で論文の研究・要約・発表を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

共同研究への取り組みの状況と、毎回の提出課題を評価の対象とする。

欠席について

欠席は1回につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の提出する論文の要約文を元に文献講読を実施するため、テキストはその都度適宜紹介することとする。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題は毎週提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	e		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

討議を重ねて互いに学び合いながら、各自が研究したい内容について熟考する。そして、研究テーマの方向性を確かなものにしていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

幼児教育における環境構成や教材研究について学びながら、幼児教育の重要性を認識する。あわせて、各自の興味・関心に応じたテーマを見出せるように、段階を追って授業を行う。

授業計画

- 1 演習Ⅱの進め方について共通理解する
- 2 課題レポートの推敲をし、考察を深めて再作成する①
- 3 課題レポートの推敲をし、考察を深めて再作成する②
- 4 秋をテーマに保育を考えてみよう①
- 5 秋をテーマに保育を考えてみよう②
- 6 秋をテーマに保育を考えてみよう③
- 7 秋をテーマに保育を考えてみよう④
- 8 文献をもとにレポートを作成・発表して協議する①
- 9 文献をもとにレポートを作成・発表して協議する②
- 10 教育実習での学びを研究テーマに活かす①
- 11 教育実習での学びを研究テーマに活かす②
- 12 卒業研究に向けて見通しを立てる①
- 13 卒業研究に向けて見通しを立てる②
- 14 卒業研究に向けて見通しを立てる③
- 15 演習Ⅱを振り返り、学びの確認をする

授業の方法

文献熟読後のレポート作成を中心しつつ、教材研究・教材作成・模擬保育なども取り入れて、主体的に取り組むをめざす授業をする。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①提出を求めるレポート等について、授業内で評価と助言を行う。
②平常点50% 定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点の減点とし、遅刻は2点減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

授業中に随時紹介する。

留意事項

研究を進めるために、主体的に文献等の収集などに努めること。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して研究テーマに迫るため、的確なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、E（倫理）を養う。

授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、現場での適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見直しをもつようにする。

授業計画

- 1 演習Ⅲの進め方について
- 2 卒業研究・論文のまとめ方について
- 3 研究対象と調査期間について
- 4 研究方法と分析方法について
- 5 調査の進捗報告と討議①
- 6 調査の進捗報告と討議②
- 7 各自の先行文献調査のまとめ①
- 8 各自の先行文献調査のまとめ②
- 9 「問題と目的」の発表・討議①
- 10 「問題と目的」の発表・討議②
- 11 「研究方法」の発表・討議①
- 12 「研究方法」の発表・討議②
- 13 仮説と今後の見直しについて発表・調整①
- 14 仮説と今後の見直しについて発表・調整②
- 15 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への助言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、質的・量的調査について計画的に進めること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラ（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究方法や分析の方法についても復習する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 リサーチ1・発表・ディスカッション1
- 3 リサーチ2
- 4 リサーチ3
- 5 リサーチ4
- 6 各自の研究の問題と目的について設定・発表
- 7 各自の研究の研究方法、調査、手続きについて進行報告、ディスカッション1
- 8 進行報告2
- 9 進行報告3
- 10 調査報告1
- 11 調査報告2
- 12 調査報告3
- 13 結果のまとめ方について1
- 14 結果のまとめ方について2
- 15 結果のまとめ方について3

授業の方法

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究方法や分析の方法についても復習する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

毎週の課題の提出状況と演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

各受講生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題の提出は毎週とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、 スクールカウンセラ（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 調査結果のまとめ1
- 2 調査結果のまとめ2
- 3 調査結果のまとめ3
- 4 結果報告1
- 5 結果報告2
- 6 結果報告3
- 7 結果報告4
- 8 まとめと考察1
- 9 まとめと考察2
- 10 まとめと考察3
- 11 要約作成・発表1
- 12 要約作成・発表2
- 13 要約作成・発表3
- 14 研究発表1
- 15 研究発表2

授業の方法

卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題の提出状況、演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

1回の欠席につき5点、遅刻につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する

留意事項

心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

授業の到達目標

テーマを深く掘り下げて研究を進め、その成果を卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とを養う。

授業の概要

研究テーマに沿って文献や資料の分析を行い、それをもとに報告と考察を繰り返しながら、研究を進め、完成していく。

授業計画

- 1 研究の進捗状況の確認(1)
- 2 研究の進捗状況の確認(2)
- 3 研究の進捗状況の確認(3)
- 4 研究の報告と討議(1)
- 5 研究の報告と討議(2)
- 6 研究の報告と討議(3)
- 7 研究の報告と討議(4)
- 8 研究の報告と討議(5)
- 9 研究の報告と討議(6)
- 10 研究の報告と討議(7)
- 11 研究の修正とまとめ(1)
- 12 研究の修正とまとめ(2)
- 13 研究の修正とまとめ(3)
- 14 最終報告とまとめ
- 15 最終報告とまとめ

授業の方法

各自の報告や全体討議とともに、個別指導を取り入れて授業を進める。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法、その他

①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で評価・助言を行う。

②平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点減点とし、遅刻は2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説」フレーベル館

留意事項

自ら責任をもって計画的に取り組むこと。

教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
知覚・認知心理学		17331	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラ（神戸市）、施設心理士		

授業の到達目標

人間が身体と心を動員して環境に臨むなかで、それを知覚し、判断し、行動するシステムが機能することを、その成り立ちとともに解説し、人間が「環境内存在」であることの理解を深める。人の感覚・知覚等の機序及びその障害、また、人の認知・思考等の機序及びその障害についても理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

見る、聞く、触れる、思考する、記憶するという人間の基本的な精神機能は、常に主体と環境との連続した循環的な反応の環のなかで実現している。人間が能動的かつ協同的な存在であるがゆえに、これらの基本的な機能は実現されているということ、心理学的システムとして理解し、その成り立ちについて、進化心理学的あるいは発生心理学的な視点から考察してゆく。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 人間の知覚的特性: 視覚
- 3 人間の知覚的特性: 聴覚
- 4 人間の知覚的特性: 運動感覚と認知
- 5 人間の知覚的特性: 空間知覚
- 6 注意と記憶 1
- 7 注意と記憶 2
- 8 イメージ処理
- 9 言語と談話理解 1
- 10 言語と談話理解 2
- 11 推論と問題解決
- 12 思考と言語 1
- 13 思考と言語 2
- 14 社会的認知
- 15 まとめと期末テスト

授業の方法

講義と単元内容に相当した、感覚、知覚、文章記憶、意味表象、物語認知、出来事認知、日常の問題解決などについての課題に実験などの活動を通じて毎時間回答しながら学習をすすめる。レポート作

成が課題となる。また小テストも実施する。

準備学修

心理学概論で学んだ感覚、知覚、記憶、思考などの基本的な概念をよく理解しておくこと。Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

テキスト

『心理学の最先端』末田啓二編著 あいり出版 2013

留意事項

毎週実験を実施するため、欠席した場合は必ず補習を受け、実験レポートを提出すること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学統計法		17339	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
安岡 勇輝	選択	2			

授業の到達目標

心理学で用いられる統計手法の基本的な技法とその考え方を、心理学的な領域のデータを扱いながら、自ら活用できるような力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究の解析手法を支える統計学について、その理論的な意味と、統計に関する基礎的な知識について解説する。講義は、できる限り具体的なデータを学生が扱い、実際の統計の手法について触れ、記述統計から推測統計まで、処理プロセスと統計手法、個々の概念について学んでゆく。

授業計画

- 1 データの性質について①
- 2 データの性質について②
- 3 データの表現
- 4 代表値と散布度
- 5 標準化とは何か
- 6 相関係数とは何か①
- 7 相関係数とは何か②
- 8 標本と母集団①
- 9 標本と母集団②
- 10 統計的仮設検定の考え方①
- 11 統計的仮設検定の考え方②
- 12 ノンパラメトリックな検定
- 13 平均値の差の検定
- 14 データの分散と条件の比較
- 15 試験

授業の方法

講義と単元内容と相応した、確率、変数の性質、データ分布、代表値、散布度、標準化、相関係数、カイ二乗検定、t検定など具体的な計算や検定作業を行いながら、レジュメと教科書を用いて学習を進める。

準備学修

事前に記述統計の基本について、復習しておくこと。授業ごとに、教科書とレジュメを読み込み、毎日20分程度、予習・復習すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特別欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

テキスト

山田剛史・村井潤 郎 2004 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

参考図書

石村貞夫 1993 すぐわかる統計解析 東京図書
吉村寿夫 1998 本当にわかりやすいごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房
田中敏・山際勇 郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版
南原風朝和 2002 心理統計学の基礎 有斐閣

留意事項

本講義では「統計学入門」を履修しておくことを前提として進める。講義では電卓を使用することがあるので準備しておくこと。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

教員連絡先

メール：yasuoka@kaisei.ac.jp

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学実験			17342	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。実験実習を通して「実験の計画立案」と「統計に関する基礎的な知識」について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から記憶までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方、説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 心理学実験と統計の基礎知識
- 3 知覚1 ミューラー・リヤー錯覚
- 4 知覚2 ミューラー・リヤー錯覚
- 5 認知・学習1 鏡映描写
- 6 認知・学習2 鏡映描写
- 7 記憶と忘却1
- 8 記憶と忘却2
- 9 要求水準1
- 10 要求水準2
- 11 イメージの測定(SD法)1
- 12 イメージの測定(SD法)2
- 13 社会的促進1
- 14 社会的促進2
- 15 まとめ

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学修

平均値の求め方を復習しておく。各実験レポートを作成する。（10

時間)

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する。

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理的アセスメント			17344	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

心理的アセスメントの目的及び倫理、そして心理的アセスメントの観点及び展開について学ぶ。心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を実際に体験し、その分析結果を適切な記録及び報告としてまとめることが出来るようになる。基本的な心理検査を通じて自己分析し、自己理解につなげる。また、子ども理解を深めるために、子どもの発達状況を捉える発達検査や知能検査について知り、実施方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

基本的な心理検査・発達検査・知能検査等を、検査者・被験者の両方の立場で体験し、検査の背景・実施方法・検査結果のまとめ方を学び、身に付ける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

- 1 はじめに：心理検査法概論
- 2 東大式エゴグラム
- 3 矢田部・ギルフォード性格検査
- 4 コーネルメディカルインデックス
- 5 BIG FIVE尺度
- 6 津守・稲毛式乳幼児発達診断1
- 7 津守・稲毛式乳幼児発達診断2
- 8 遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査
- 9 新版K式発達検査①
- 10 新版K式発達検査②
- 11 新版K式発達検査③
- 12 WISC知能検査①
- 13 WISC知能検査②
- 14 WISC知能検査③
- 15 総括・期末試験

授業の方法

毎回テーマとなる検査を実施し、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

全てのレポート作成と提出で合格となるため、欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

テキスト

資料を毎回の授業中に配布予定。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

検査についての事前学習・事後学習を行い、理解を深めること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理調査・データ処理法		17345	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
新美 裕之	選択	2	児童心理治療施設・児童養護施設の主任セラピスト、 臨床心理士・公認心理師		

授業の到達目標

- ・心理学における調査法の基本的な考え方を理解する。
- ・実際に実施し、得られたデータを統計的な解析に持ち込み、評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を身につける。
- ・このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究のとりわけ調査法について、統計的な手法を用い、データ解析を取り入れた研究方法について学ぶ。論文などの具体的な調査を参考にしつつ、調査の実施法について、問題の設定、質問紙の作成、データの収集、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現にいたるまでのプロセスを実践的に学んでゆく。また、その際に必要な研究倫理についても学ぶ。

授業計画

- 1 質問紙法による人間理解
- 2 質問紙作成の基礎
- 3 質問紙法の実施方法①
- 4 質問紙法の実施方法②
- 5 質問紙法の実施方法③
- 6 コーディングと入力
- 7 心理尺度の作成
- 8 量的資料収集のための質問紙作成①
- 9 量的資料収集のための質問紙作成②
- 10 心理尺度の作成
- 11 データの処理法:質的データの集計
- 12 データの処理法:平均値の比較
- 13 データの処理法:相関分析
- 14 質問紙法の実際
- 15 質問紙法のまとめ

授業の方法

講義と単元内容に相応した、質問紙の作成、調査の実施、統計などの具体的な手順を教科書を中心に、レジュメ等の資料を基に学びながら、学習を進める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出ること。

テキスト

鎌原雅彦・宮下 博・大野木裕明・中澤潤 1998 心理学マニュアル質問紙法 北大路書房

参考図書

留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシーⅡ」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習（心理テスト法）		17375	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
中植 満美子	選択	1	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、 小・中スクールカウンセラ（神戸市）		

授業の到達目標

心理臨床現場（保健所、児童相談所、病院など）における幼児期の発達状況を捉え発達検査や心理判定の際に役立つ基本的な心理検査について知り、身につけることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

各心理検査の意図を理解し、各心理検査において検査場面を想定したロールプレイを行い、検査者と被検査者のそれぞれを体験し、検査の実施方法や検査結果のまとめ方を学び、身につける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

- 1 はじめに 心理テスト概論
- 2 心理検査法実習の復習
- 3 P-Fスタディ①
- 4 P-Fスタディ①
- 5 文章完成法 SCT
- 6 内田クレベリン作業検査
- 7 新規検査発達検査④
- 8 新規検査発達検査⑤
- 9 WISE知能検査④
- 10 WISC知能検査⑤
- 11 パウムテスト
- 12 風景構成法
- 13 スクイグル法
- 14 箱庭療法①
- 15 箱庭療法②・統括・期末テスト

授業の方法

実習形式で行い、検査結果を分析し、所見をレポートで提出させる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習なので、基本欠席は認めない。

テキスト

授業中に資料配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

定員20名までとし、超過する場合は資格取得予定者を優先する。レポート課題の提出は、実習の翌週とする。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理演習			17839	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、 スクールカウンセラ（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標

医療機関・福祉施設・教育機関等での臨床心理士または心理専門職としての心理支援に関する実務経験をもとに具体的場面を設定した演習を実施し、公認心理師として必要とされる知識及び技能の基本的な水準の習得を目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、多職種連携及び地域連携、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解について、具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイ）や事例検討等を実施する。

授業計画

- オリエンテーション
対人支援者としての姿勢、公認心理師としての職業倫理及び法的義務を理解する
- コミュニケーション実習(1) 非言語的交流
身ぶり、他者に添う動き、姿勢、距離、アイコンタクト等の非言語的交流の意識化を行い、話し手が話を聴いてもらっていると感ずる関わりについて学ぶ。
- コミュニケーション実習(2) 傾聴と応答
あいづち、短い言葉の応答のみを行いながら、相手の話しを傾聴し、話し手の気持ち、感情を理解する。
- コミュニケーション実習(3) 傾聴とストーリー理解
傾聴後、大切と思われる箇所を相手の言葉を使用して短い言葉でのみ返し、理解の確認、質問、話の焦点づけを行いながらストーリーを理解する。
- コミュニケーション実習(4) 傾聴とストーリー理解の伝え返し
実習(1)～(3)で学んだことを総合し、話し手の伝えたい感情や内容を、相手の言葉を用いてストーリーとして伝え返す関わり方について学ぶ。
- 心理面接のロールプレイング(1)
CI役、CIの観察者役、Th役、Thの観察者役、全体の観察者役になり、ロールプレイングを行い、その後フィードバックを行う。
- 心理面接のロールプレイング(2)
CI役、CIの観察者役、Th役、Thの観察者役、全体の観察者役になり、ロールプレイングを行い、そのフィードバックを行う。
- 心理検査のロールプレイング(1) 質問紙法
心理検査の準備、ラポールの持ち方、施行、フィードバックについて学ぶ。施行者、受検者、観察者役をつけて、話し合いとフィードバックを行う。
- 心理検査のロールプレイング(2) 描画法
心理検査の準備、ラポールのつけ方、施行、フィードバックについて学ぶ。施行者、受検者、観察者役をつけて、話し合いとフィードバックを行う。
- 心理検査のロールプレイング(3) 投影法
心理検査の準備、ラポールのつけ方、施行、フィードバックについて学ぶ。施行者、受検者、観察者役をつけて、話し合いとフィードバックを行う。
- 事例の理解(1)
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働、その他の分野からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。

- 事例の理解(2)
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働、その他の分野からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
- 事例の理解(3)
保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働、その他の分野からの事例報告を通して、支援を要する者等への理解とニーズの把握、および支援計画の作成について学ぶ。
- 多職種連携と地域支援
支援を要する者等に対するチームアプローチの意義、および多職種間の連携と地域支援について理解する。
- 総括・振り返り・達成度の評価
ここまでの授業内容の振り返りを行う。出題された授業内課題を各自行う。

授業の方法

講義、ロールプレイング、グループ学習を通して、支援者としての姿勢を身につけていく。逐語記録の提出等の課題作業もある。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

2～10回はロールプレイ等への積極的参加、授業終了時の達成度、授業内・事後課題がある場合にはその内容を評価する
11～14回は事例検討への積極的参加、授業内・事後課題がある場合にはその内容を評価する
15回は授業内を行う課題を評価する
評価の配分は2～14回が各回7点満点、15回が9点満点とする。

欠席について

欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

テキスト

資料を毎回の授業中に配布予定。

参考図書

プロカウンセラーの聞く技術、東山敏久著、創元社

留意事項

公認心理師養成大学院受験予定者は受講すること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
公認心理師の職責			17843	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スク ルカウンセラ（神戸市）、施設心理士			

授業の到達目標
 公認心理師が担う職務と責任の内容を理解し、公認心理師を目指すための基礎的な知識を習得する。
 ①公認心理師の役割について理解し、法的義務や倫理、チーム支援、守秘義務のあり方等についての知識を身につける。
 ②保健医療、福祉、教育、司法・矯正、産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務の内容について理解し、説明できる。
 ③心理的援助者としての自己の課題に向き合い、課題解決能力を身につけるのに必要なことを考え、生涯学習の準備に取り組んでいける態度を獲得する。
 このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）I（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要
 公認心理師の学びの導入として、公認心理師の職責に求められる8つの事項を踏まえた授業内容となる。8つの事項は次のとおりである。「①. 公認心理師の役割」「②. 公認心理師の法的義務及び倫理」「③. 心理に関する支援を要する者等の安全の確保」「④. 情報の適切な取り扱い」「⑤. 保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務」「⑥. 自己課題発見・解決能力」「⑦. 生涯学習への準備」「⑧. 多職種連携及び地域連携」

授業計画

- オリエンテーション
- 心理学的支援の歴史 心理学・臨床心理学の成り立ちについての振り返り
- 公認心理師の役割 公認心理師法
- 公認心理師の法的義務・倫理
- 公認心理師の職業倫理
- 心理に関する支援を要する者等の安全の確保
- 情報の適切な取り扱いについて
守秘義務 個人情報保護
- 情報共有・連携について
多職種連携・地域連携 多職種連携 地域連携 生物・心理・社会モデル
- 公認心理師の業務①
保健医療分野における公認心理師の具体的な業務
- 公認心理師の業務②

福祉分野における公認心理師の具体的な業務
 11 公認心理師の業務③
 教育分野における公認心理師の具体的な業務
 12 公認心理師の業務④
 司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務
 13 公認心理師の業務⑤
 産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務
 14 問題解決能力と生涯学習
 15 期末試験

授業の方法
 テキストを中心とした講義形式である。リサーチしたことを発表する時間も設定する。

準備学修
 Webで参照すること。

課題・評価方法、その他
 平常点70%、定期試験30%

欠席について
 1回の欠席につき平常点より3点減点、遅刻は2点減点となる。

テキスト
 野島 彦編 公認心理師の職責 遠見書房 2018

留意事項
 ①公認心理師養成大学院受験予定者は受講すること。
 ②事例等を活用した倫理問題などを扱うこともあるので、受講者はしっかりとプライバシー保護の意識をもって授業に臨むこと。

教員連絡先
 nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー
 直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
産業・組織心理学			17847	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安岡 勇輝	選択	2				

授業の到達目標
 人が幸福に働くとはどういうことか、働く上での心理的問題をどう考えるかについて、産業・組織倫理学の知見をもとに深めていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要
 産業・組織心理学の知見を学びながら、人が幸福に働くためには何が必要なのか、働く上での心理的問題にどう対応し、どのように支援していくかについて学習する。

授業計画

- 産業・組織心理学の歴史
- ワーク・モチベーション
- 採用と面接
- 人事評価
- キャリア発達①
- キャリア発達②
- 職場のコミュニケーションと人間関係①
- 職場のコミュニケーションと人間関係②
- リーダーシップ
- 消費者行動とマーケティング
- 仕事の能率と安全①
- 仕事の能率と安全②
- 職場のストレスとメンタルヘルス①
- 職場のストレスとメンタルヘルス②
- 試験

授業の方法
 レジメと教科書を用いて授業を進める。少人数の場合、ディスカッションも織り交ぜながら知見を深めていく。

準備学修
 事前に産業・組織心理学の基本的な分野について予習を進めておくこと。

課題・評価方法、その他
 平常点50%、定期試験50%

欠席について
 通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

テキスト
 山口裕幸・金井篤子 2007 よくわかる産業・組織心理学

教員連絡先
 yasuoka@kaisei.ac.jp